

One day, Hiroki sees his friend June **on his way home**.

家に帰る途中

“Hi, June. What are you doing?” he says to June.

June is surprised. “**What’s the matter?**” Hiroki asks.

どうしたのですか？

“Oh, hello, Hiroki. I’m **all right**. I’m going home,” June says.

大丈夫

She is carrying a large box.

Hiroki **looks at** it and says, “It’s very large! What do you have in the box?”

～を見る

“Um” June can’t answer.

“Well, **can I** guess?” Hiroki says.

～してもよいですか

“Let’s see ... you’re a good **volleyball** player. It is a new volleyball, right?”

バレーボール

“No, it isn’t,” June answers.

“How do you use it?” “Where did you get it?”

Hiroki asks many **questions**, but June doesn’t answer them.

質問

“Oh, I **give up**, June. Can you tell me?” Hiroki asks.

あきらめる

June says, “I can’t tell you. It’s a birthday gift for you!”

ある日、ひろきは家に帰る途中で友達のアーンを見かけます。

「やあ、アーン。何をしているの？」ひろきはアーンに言います。

アーンは驚きます。「どうしたの？」とひろきがたずねます。

「あら、こんにちは、ひろき。私は大丈夫よ。家に帰るところなの。」とアーンは言います。

アーンは大きな箱を運んでいます。

ひろきはそれを見て言います。「とても大きいね！ その箱の中には何が入っているの？」

「えーと…。」アーンは答えられません。

「じゃあ、あてててもいい？」ひろきは言います。

「ええと…きみはバレーボールが上手だね。それは新しいバレーボールだろう？」

「いいえ、ちがうわ。」とアーンは答えます。

「どうやって使うの？」「どこで手に入れたの？」

ひろきはたくさんの質問をしますが、アーンは答えません。

「ああ、あきらめるよ、アーン。ぼくに教えてくれる？」ひろきはたずねます。

アーンは言います。「あなたには教えられないわ。これはあなたへの誕生日プレゼントよ！」

A fox lives in the forest.

キツネ

森

He eats nothing these days, so he is very hungry and thirsty.

何も～ない

このごろ

“I’m very hungry. I want some food.” The fox sighs.

He walks around the forest. He looks up and sees something on a tree.

歩き回る

見上げる

木

“What’s that? Wow, those are grapes!” The fox finds some grapevines.

ブドウ

(～を) 見つける

ブドウの木

“How can I get the grapes? ... I can jump!” Now he is excited.

跳(と)ぶ

He jumps, but he can’t get the grapes.

“Well This grapevine is too high.”

He jumps at the next one, but he can’t get the grapes.

He tries many times, but he can’t get them.

After a while, he gives up.

しばらくして

あきらめる

The fox says, “Those grapes are sour grapes, so I don’t want them.”

すっぱい

1 匹のキツネが森に住んでいます。

キツネはこのごろ何も食べていないので、とてもおなかがすいてのどが渴いています。

「とてもおなかがすいたな。食べものが欲しいな。」キツネはため息をつきます。

キツネは森を歩き回ります。見上げると、木に何かが見えます。

「あれは何だ？ おお、ブドウじゃないか！」キツネはブドウの木を見つけたのです。

「どうしたらあのブドウがとれるかな？…ぼくは跳べる！」今キツネは興奮しています。

キツネは跳びますが、ブドウをとることはできません。

「ええと…このブドウの木は高すぎるんだ。」

キツネは次の木に向かって跳びますが、ブドウをとることはできません。

何度も試しますが、ブドウをとることはできません。

しばらくして、キツネはあきらめます。

キツネは言います。「あのブドウはすっぱいブドウだから、ぼくは欲しくないや。」